

FY2024 ADC ユーザーズミーティング Q & A シート (2025/04/18改訂)

No	分類	質問・意見・要望	ADC からの回答
1	ADC全体	体制・予算について、データ保持と公開の重要性に鑑みて国立天文台で適切な予算措置はなされているのか。データ取得後のケアを行う体制のバランスが取れていないのではないか	データ保管公開に関する政策上の追加予算や補正予算などの機会がある場合には獲得の努力はしてきているが、本来の安定運用や将来計画に向けて必要な予算規模はなかなか確保できていない。コミュニティのサポートは重要
2	ADC全体	プロジェクトとセンターの仕事の切り分けはどこにあるのか	ケースバイケース。データをscience readyにするまでの活動は観測所(プロジェクト)が責任を持ち、安定的にアーカイブできるようになったらデータ公開の継続を ADCが行う形が理想的と考えている。データの充実化や改善にむけてプロジェクトとADCとが役割を分担して協働していくことも必要
3	ADC全体	プロジェクトがどこまでデータの管理に責任をもつか、考える必要がある。長期にわたるデータの保管と提供のために予算措置等を検討する必要があると思う	データ管理のワークフローをプロジェクトとADCで共有し、どこまで一緒にやれるか模索している。実際にデータを使うユーザとも一緒に考えたい。データを将来に渡って管理するのは国立天文台全体としての責務と考えている
4	ADC全体	レンタルシステムと買取機器の割合はどれくらいか。さらに買取機器を増やしてレンタルシステムを減らす余地はあるのか	補填を前提としないとレンタルから買取機器へ移行できないが十分にできていない。予算を圧縮できているようにみえるが、実際は縮退運転状態。これ以上のレンタル削減は、各サブシステムとの相談も必要
5	ADC全体	意見などをUM時に限らずいつでも気軽に相談するための掲示板のようなものがあるとよい	新たに設置を準備しており、まずは天文台内からのアクセスに限定した試行を進める予定
6	ADC全体	ユーザーが研究で作ったカタログをホストしてくれるとうれしい	今のところそのようなサービスは行っていない。査読誌等で発表されたカタログはその雑誌もしくはVizieR等のサービスで公開がされることはあると思われる。カタログの公開にあたってはその内容の精度などを確認した上で作者によるドキュメントの用意なども必要と思われる。公開サイトのメンテナンスやユーザー対応などもそれなりのリソースを必要とする事から、ADCの現状からすると現時点での対応は難しい
7	解析計算機システム	MDAS のバッチ型処理の利用は LSC に移行ということだが MDAS, LSC の連携はどのようになっている(なる)か	現在の状況は・アカウントは共通(ただしLCSは要利用申請)・/lwk 領域でファイル共有可・ソフト構成は独立、となっている。現時点ではOSバージョンが異なるが、将来的に揃えることで連携が進む予定
8	解析計算機システム	PFS 共同利用観測対応の開始に当たり、データ公開とともに解析ソフトも公開されるのか？	ハワイ観測所が担当して、すばるのPFSページから案内予定。データ解析パイプライン、pipeline tutorial が公開される
9	解析計算機システム	ToO で LSC を使えることを知らなかった。いつ利用申請すればよいのか	柔軟に対応する。使う可能性がある場合は、プログラム採択時など、必要になりそうなりソース等、ハワイ観測所へあらかじめ相談してほしい
10	解析計算機システム	HSC、PFSのデータ解析事業としてLSCを継続的に使用するに当たって、GPFS領域の逼迫が問題になっている	大口ユーザにデータ整理に協力してもらうのとあわせて、実際に利用しているユーザからの意見を伺った上で、2025/6/2 よりクォータを導入する予定
11	解析計算機システム	限られた計算資源の中で、LSC のクォータ導入には賛成。しかし、直近の観測データが多い、学位論文提出を控えているなどのケースに特例措置のようなものはあっても良い	クォータ導入を進めるが、研究上容量が不足する場合は相談に応じる

12	解析計算機システム	MDASもLSCも計算機の使い方が最適化されていないのではないか。予算はどこも厳しいので次回リプレイスではさらに規模縮小の余地はないか	CPU使用量だけでは実際の使われ方は判断できない。MDASは対話的に使うものなので事前に計画してCPUを効率的に利用することは難しい。アクセスした時の使いやすさなどバランスも考慮しなければならない。最適なシステムやその実現のための技術の検討は続けていく
13	解析計算機システム	ADC の共同利用で、GPU・GPUクラスタを導入する可能性はないか？	CfCA(天文シミュレーションプロジェクト)が共同利用運用しているGPUクラスタが利用可能。観測データの解析を含めて多様な研究課題に対して利用できる
14	共同利用室	現在は平日昼間しか使えない共同利用室に設置された大判プリンタを夜間も使いたい	要望に応じて検討したい。防犯面の懸念や、不具合発生時の対応、消耗品交換をケアする体制などの課題を検討する必要がある
15	アーカイブ・データサービス	SMOKA で、データのダウンロードは行わないが、過去データの有無などの調査に検索機能を使用した場合などの論文への謝辞の必要性和書き方は？	調査のための利用についても、謝辞に書いていただけるとありがたい。書き方は今後相談させて頂きたい。なお、位置較正が済んでいないデータも多いため、検索の精度などには注意が必要である
16	アーカイブ・データサービス	SMOKA で生データがアーカイブされていても、解析環境がやノウハウが失われてしまう可能性に対する ADC の対策は？環境をコンテナとしてバックアップするような活動もあるとよい	各観測装置のドキュメントのWebページ(利用可能な場合には解析ツールや手引きも)へのリンクとバックアップを保管している。コンテナのバックアップも今後重要かもしれない
17	アーカイブ・データサービス	SMOKAとの連携を考えると、いろいろな装置を扱うことになるが、DBの作成に必要な装置側から出すべきデータのガイドラインが必要だと思う	日本の中での標準化、コミュニケーションの密化が必要となる。今後システムの更新を検討する中では考慮していくことになる
18	アーカイブ・データサービス	検討中のTAOデータ配布の参考として、MASTARS でのアカウント数の、これまでの累計と1年間での増加がどの程度か知りたい	正確な数字は要調査だが、STARS以外のサービスのアカウントとしても使われている分も含めて約1700で、増加 は 45 ± 15 /年程度と推測
19	アーカイブ・データサービス	なぜ STARS/MASTARS はすばるのユーザに閉じたサービスであるのに、ADCが引き取ることになったのか	予算や負担の移動の意図があった。ADCですばる望遠鏡の公開データアーカイブを長く運用してきたことと、アーカイブをADCで一括管理することで将来的により大きなシステムに発展していける可能性を考慮した上で引き受けた。ADCと観測所の間でシステム配置や運用の分担を見直す作業であり、移行後もADCがデータ運用のすべてを担うわけではない。役割分担は観測所側と調整している
20	アーカイブ・データサービス	新光赤外アーカイブ(アーカイブ統合)の全体像やメリットについて知りたい	メリットはトータルでのストレージ量の軽減や最適化が図れることだが、一方でデータ保全のため一定の冗長化は必要と考えている
21	アーカイブ・データサービス	アーカイブ統合は大変だと思うが、既存のものを維持するよりもコストは低いのか	難しい。マンパワーの余力やどれくらい省力化できるか次第だが今はギリギリの状態。SMOKAは30年近く運用しているため直したい部分がある。長期的にはストレージと管理工数のコスト削減につながると期待される
22	アーカイブ・データサービス	新光赤外アーカイブで、利用者登録やデータ検索・ダウンロードの I/F の共通化が進むと便利と思われるが、実現のための労力は大きいだろうと懸念する	より便利なシステムにできるように、利用者からの意見や要望は大変ありがたいので、実現性は別にして、どんどん出していただきたい
23	アーカイブ・データサービス	VO に対応していない既存のアーカイブでも適切なメタデータ(とリンク先)があれば JVO に乗せることができるという理解でよいか	必要なメタデータが揃っていれば JVO からの VO 配信が可能
24	アーカイブ・データサービス	VOも長期運用がされているが、今後のVOの世界的な兆候はわかるか	VOのプロトコルは完成している。現在は今のプロトコルを使って公開していく流れだが、次のプロトコルを進めているところもある

25	アーカイブ・データサービス	LLMを使って自然言語で SQL 検索を代替できたりはしないか	現時点では SQL が妥当かどうか保証できず困難と思われる。参考用として雛形を作ってもらう位には使えるかもしれない
26	アーカイブ・データサービス	SP (Science Platform) のデスクトップ機能を、例えばリモート観測のクラウド環境として使うことはできないか？	観測所にSPをインストールすれば可能かもしれない
27	アーカイブ・データサービス	SPで、たとえばレガシーな解析環境をセキュリティ的に問題ない隔離環境で、仮想マシンorコンテナから活用できるとよい。また、general な解析環境として ADC から公開するか可能性はあるか？	確かに需要がありそう。ゆくゆくは Public Releaseを目指している。たとえば講習会でもコンテナイメージを活用すれば環境構築の手間が省けて便利そう
28	アーカイブ・データサービス	API、ユーザーインターフェース等について、APIの整備とドキュメント化は重要と考える	ADC としても重要と考えている。データアーカイブにあたっては、APIの整備やドキュメント化についても十分に留意して進める
29	アーカイブ・データサービス	今後新しい電波望遠鏡のデータを電波アーカイブに登録したい場合、どこに相談すれば良いか	まず関係者や近い人に相談していただき、次にADCに相談してもらえるとよい
30	アーカイブ・データサービス	どのように検索できるのか、どんなDBがあるのか、分からない。誰に相談すれば良いか相談先リストがほしい	ADCの各サービスについては各担当者に尋ねてもらえばよい。ADC内にどのようなサービスがあるのか問い合わせた時にすぐ分かるような体制作りは要検討。また、ユーザから質問を受ける掲示板(forum)の設置を検討している(Q&A #5参照)